



平成20年5月9日

各 位

会社名 株式会社 ニックス  
代表者名 代表取締役社長 青木伸一  
(JASDAQ・コード4243)  
問合せ先 取締役管理本部長 先本孝志  
電話 045-221-2001

平成20年9月期中間期及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成20年9月期(平成19年10月1日～平成20年9月30日)中間期及び通期の業績予想について、平成19年11月20日付当社「平成19年9月期決算短信」にて発表いたしました中間期及び通期の業績予想を以下のとおり修正いたします。

1. 平成20年9月期 中間期業績予想の修正等

(1) 連結業績予想(平成19年10月1日～平成20年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	2,534	237	227	124
今回修正(B)	2,329	96	89	47
増減額(B-A)	△ 205	△ 141	△ 138	△ 77
増減率	△ 8.1%	△ 59.5%	△ 60.8%	△ 62.1%

(2) 単独業績予想(平成19年10月1日～平成20年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	2,444	238	229	126
今回修正(B)	2,244	89	69	30
増減額(B-A)	△ 200	△ 149	△ 160	△ 96
増減率	△ 8.2%	△ 62.6%	△ 69.9%	△ 76.2%

### (3) 修正理由

売上高につきましては、大手複写機メーカーにおける摺動性・耐久性に優れた当社製の軸受け部品の採用や生産設備業界向けマガジンラックの堅調な売上など実績を積み上げてまいりました。しかしながら、複写機などの事務機器業界向けにおいて、1月以降主力顧客各社の急激な減産による影響のため、当社の主力製品である工業用プラスチック・ファスナーの売上が低迷、上期で1億円程度の予算比マイナスとなりました。また、住宅設備業界における集合住宅をはじめとする不動産市況の低迷による給湯設備用プラスチック継手の販売不振と、製造業全体の設備投資抑制に起因した産業機器業界向けの工作機械用プラスチック・ファスナー、機構部品などの売上が低迷し、予算比1億円程度のマイナスとなりました。これらの要因により連結で当初予想25億34百万円を下回る23億29百万円（当初予想比2億5百万円減、対前年比：1億47百万円減）を見込んでおります。また、単独は連結と同様の要因により当初予想24億44百万円を下回る22億44百万円（当初予想比2億円減、対前年比：1億15百万円減）となる見込みです。

損益面では売上高減少の影響に加え、北米向け売上回復のため低価格路線をとった一部事務機器業界向け製品の値下げ要請への対応、原油価格高騰によるプラスチック原料価格の上昇などによる売上総利益率の低下が減益要因となり、効率的な各種展示会出展などによる広告宣伝費、外部委託支払手数料など営業経費全体の節減を実施したものの、上記の減収要因を吸収するには至らず、営業利益は連結で96百万円（当初予想比1億41百万円減、対前年比2億39百万円減）、同様の要因により単独は89百万円（当初予想比1億49百万円減、対前年比2億16百万円減）を見込んでおります。概ね予定通りであった営業外損益を含む経常利益は連結で89百万円（当初予想比1億38百万円減、対前年比2億21百万円減）、単独は69百万円（当初予想比1億60百万円減、対前年比2億9百万円減）を見込んでおります。

中間純利益は上記の影響により、連結で47百万円（当初予想比77百万円減、対前年比1億4百万円減）、単独では30百万円（当初予想比96百万円減、対前年比94百万円減）となる見込みであります。

※上記業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

### (4) ご参考：前年中間期の実績（平成18年10月1日～平成19年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
連結	2,476	335	310	151
単独	2,359	305	278	124

## 2. 平成20年9月期 通期業績予想の修正等

### (1) 連結業績予想（平成19年10月1日～平成20年9月30日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	5,189	509	490	270
今回修正 (B)	4,663	215	200	108
増減額 (B-A)	△ 526	△ 294	△ 290	△ 162
増減率	△ 10.1%	△ 57.8%	△ 59.2%	△ 60.0%

## (2) 単独業績予想 (平成19年10月1日～平成20年9月30日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	4, 985	499	480	262
今回修正 (B)	4, 483	192	157	82
増減額 (B-A)	△ 502	△ 307	△ 323	△ 180
増減率	△ 10. 1%	△ 61. 5%	△ 67. 3%	△ 68. 7%

## (3) 修正理由

引き続き国内生産設備業界でのマガジンラック売上は堅調を維持するものの、米国におけるサブプライムローン問題に端を発した世界的な景気減速の長期化が見込まれ、設備投資抑制による米国向けマガジンラックユーザーの減産の影響が下期で1億円程度のマイナスと予想されます。また事務機器業界においては、米国向け複写機の生産数下方修正による影響、及び住宅設備業界における改正建築基準法施行による住宅着工件数の低迷などにより、当社の主力製品である工業用プラスチック・ファスナーなどの製品売上高については下期予算比2億円程度のマイナスと予想しております。このことにより連結で当初予想51億89百万円を下回る46億63百万円（当初予想比5億26百万円減、対前年比：3億3百万円減）を見込んでおります。また単独も連結と同様に当初予想49億85百万円を下回る44億83百万円（当初予想比5億2百万円減、対前年比：2億65百万円減）となる見込みです。なお、当初見込んでおりました開発継続中の新規製品については本格的な量産は来期以降となる見込みのため、当期売上予想には含んでおりません。

損益面では、上期の損益悪化要因が下期も継続すると予想しております。加えて、為替水準が円高で推移することによる輸出取引の収益悪化、価格競争による収益悪化、当社独自のプラスチック素材開発などの基礎研究や新規開発案件のための研究開発費の増加などが負担増になると認識しております。これらを勘案し、営業利益は連結で2億15百万円（当初予想比2億94百万円減、対前年比2億70百万円減）、同様に単独は1億92百万円（当初予想比3億7百万円減、対前年比2億62百万円減）を見込みます。営業外損益を含む経常利益は連結で2億円（当初予想比2億90百万円減、対前年比2億76百万円減）、単独は1億57百万円（当初予想比3億23百万円減、対前年比2億73百万円減）を見込んでおります。

当期純利益は上記の影響により、連結で1億8百万円（当初予想比1億62百万円減、対前年比1億57百万円減）、単独では82百万円（当初予想比1億80百万円減、対前年比1億44百万円減）となる見込みであります。

※上記業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

## (4) ご参考：前期の実績 (平成18年10月1日～平成19年9月30日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連 結	4, 966	485	476	265
単 独	4, 748	454	430	226

なお、配当金につきましては、当初の見通しに記載した通り、1株当たり10円を予定しております。

以上